

**製品名: Cdk5 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08567**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	33kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDK5
別名	CDK5; CDKN5; Cyclin-dependent kinase 5; Cell division protein kinase 5; Serine/threonine-protein kinase PSSALRE; Tau protein kinase II catalytic subunit; TPKII catalytic subunit
遺伝子 ID	1020.0
SwissProt ID	Q00535
免疫原	抗血清はヒト CDK5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

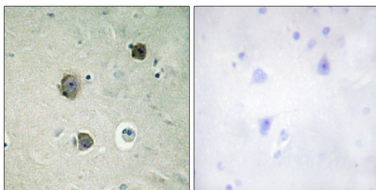
サイクリン依存性キナーゼ 5 (CDK5) ホモサピエンス この遺伝子は、サイクリン依存性キナーゼファミリータンパク質のメンバーで

あるプロリン特異的セリン / スレオニンキナーゼをコードしています。このファミリーの他のメンバーとは異なり、この遺伝子によってコードされるタンパク質は細胞周期の調節を直接制御しません。その代わりに、このタンパク質は主に哺乳類の有糸分裂終了した中枢神経系ニューロンで高レベルで発現し、細胞骨格構成、エンドサイトーシスとエキソサイトーシス、アポトーシスに必要なタンパク質のリン酸化を介して、シナプス可塑性やニューロン移動などの多様なプロセスに機能します。ヒトでは、タンパク質レベルが検出できない遺伝子の対立遺伝子変異が、致死的な常染色体劣性滑脳症 7 と関連付けられています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2015 年 5 月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、機能: 細胞周期の制御に関与していると考えられる。D1 および D3 型 G1 サイクリンと相互作用する。ヒストン H1、タウ、MAP2、NF-H および NF-M をリン酸化できる。また、キナーゼを活性化する p35 とも相互作用する。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC2/CDKX サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、細胞内局在: 末梢のラメリポディアまで伸びた軸索成長円錐内。、サブユニット: 触媒サブユニットと調節サブユニット (p35) のヘテロ二量体。CABLES1 および ABL1 との 3 分子複合体として見られる。CABLES1 と相互作用します (類似性による)。AATK と相互作用します。

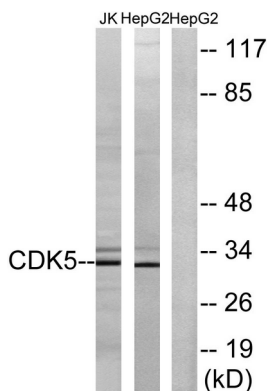
## 研究分野

軸索誘導;アルツハイマー病;

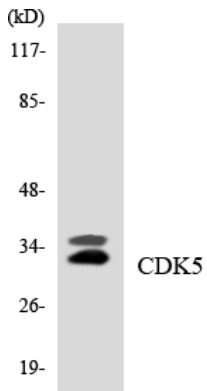
## 画像データ



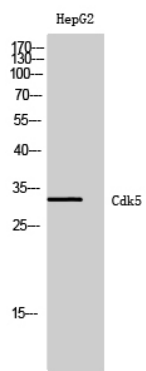
CDK5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CDK5 抗体を用いた HepG2 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CDK5 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 希釈の Cdk5 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析